

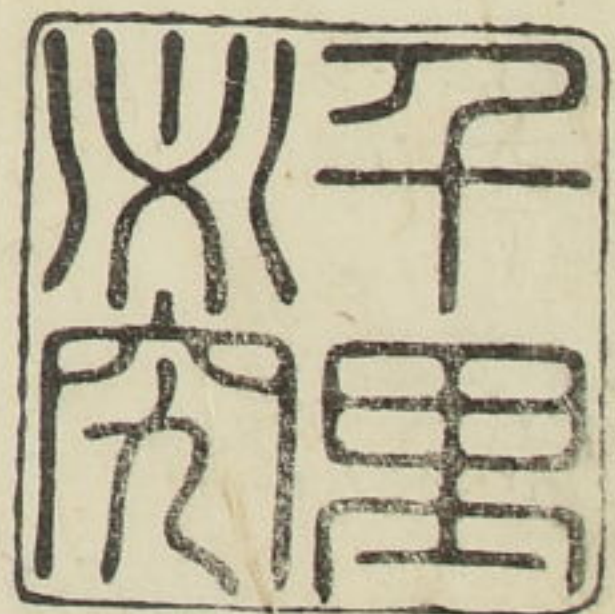
由斋先生随笔

全

15

542

村上恒菴編輯



由富先生延筆

浪華書肆

杉岡石倉堂
三木玉洲堂

由富先生



多ししめて祝壽乃事そ此他
法ハ人々能くを知らず日本
も此事あるなりなれと
大ニハ其本人より是を令り
さしし物々其まじいそハ餅を
つき或ハ赤飯なりといふと一重宛是



とくうんを親屬あつあうて
めえしなうてあうて人々
家々し人料理乃評議又誰
業誰ううい彼うういそ
大食大融又ははう立腹をく
私となしてとやううやう
其事ふありつた勝ふはすう

らと系統をううてうう
て七十も八十もふう名款みえ
ううをううあつあうをうう
詩人文人なうあう錦繡
とあつあうをうう
ううと名紙や唐紙をうう
後ハ表具乃工夫うううう

市井のうき世をよみてハ
子孫乃光榮をよみて魚のうきな
とふ事もあやふし先生
公ハ唐土よりハ朝廷乃儒紳諸王公
大臣の子弟といふあり五十韻百
韻乃長公希うきやうのえ
編子乃世をよみていふく

應しん壽堂よりいふ壽章を
いふものも大なるんす乃あつて
を擇ひて金流を是と書し
いふも昔ハえん船よりこしハ
奪とり母の事もや東紙園山と
いふものやいふものよりしる
うけるをえれハ多くハ官人文人

なまの壽車なりけり
元先生なるもの四十歳なり
ころころ江戸京大阪今ハワシの
堺不惑なるものより壽を祝
し仰る人ありて大さきお子とい
ふのよしして親屬をなく大乃
骨やら牛乃骨やら忘れぬを

なれをよびとかくと大概人な
詰度大いといふより書と
なすひよりなすひやの
よしんをれよりしかりぬ
事なしうぬけてありと
酒をふり思懐七十一
といふぬり年と目ななり

丈夫は四人にたり乃微事を
姉妹を以てなす一人や二人乃
ちうもては安楽なよしといふ
ましくなりけり以上ハなりと
其後世に唐にありてなりと
なれハ唐土なりやうとてし
うとのをなすなりなりと

くさんあるなりなり
めそしししししししし
なれもなれもなりなり
ものなりなりなりなり
いづしししししししし
なりなりなりなりなり
つるなりなりなりなり

子文家終々心をつけは後八十
九十と百と昔乃後後を各々
常々有して社中乃人々
先々乃々々叶ひ盡く長寿
な〜あ〜い〜ん〜

不問長生術弱弱事
不問長生術弱弱事

人今年七十弱弱保孤
身

人々求者移事興

永安全體心望事一

食乃意丹

先師陶齋翁所膏手自劄記
者數卷余偶探其遺篋中而獲
之矣什襲珍重拱璧不翅也乃
就其中摘若干首字之從而摸
寫之毫釐不差以為一小冊子

